

2011年3月期 第2四半期決算説明会

株式会社ヒップ

2010年11月18日

2011年3月期 第2四半期決算ハイライト(計画対比)

(単位:百万円、%)	2011年3月期 (第2四半期 期初予想)		2011年3月期 (第2四半期 実績)		計画対比	
	金額	百分比	金額	百分比	増減額	増減率
売上高	1,636	100.0	1,835	100.0	+198	+12.1
営業利益	△114	—	37	2.0	+152	—
経常利益	33	2.0	131	7.2	+97	+292.4
当期純利益	19	1.2	76	4.2	+57	+299.7

計画対比

- ◆売上高 ……受注状況の改善へのスピーディな営業展開により、待機技術者の戦力化が予想以上に進んだため、期初の売上高予想を上回った。
- ◆営業利益 ……売上高の増加が主要因により改善。その他、人件費の圧縮や継続的なコスト圧縮が寄与し、予想比152百万円増。利益を確保。
- ◆経常利益 ……稼働率が上昇し、雇用助成金の受給金額は減少するものの、営業利益の改善が大きく、計画比97百万円増。

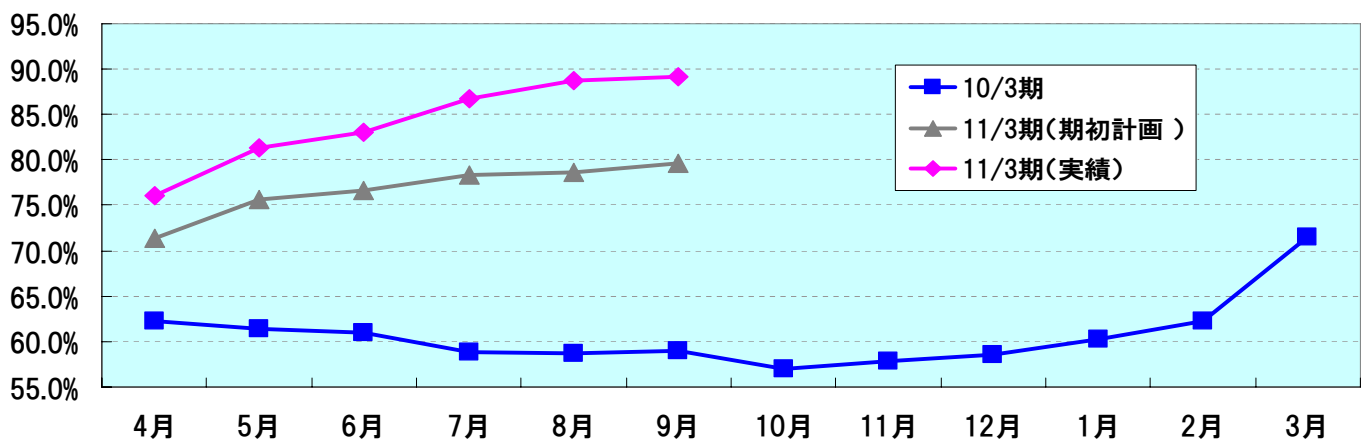
(単位:百万円、%)	2010年3月期 第2四半期		2011年3月期 第2四半期		増減額	増減率	増減要因
	金額	構成比	金額	構成比			
売上高	1,624	100.0	1,835	100.0	+210	+13.0	・稼働人員の増加 ・稼働工数の増加
売上原価	1,705	105.0	1,524	83.1	△181	△10.6	・人件費圧縮
売上総利益	△81	—	310	16.9	+392	—	
販管費	290	17.9	273	14.9	△16	△5.8	・コスト圧縮の継続
営業利益	△371	—	37	2.0	+408	—	・増収により利益確保
経常利益	△177	—	131	7.2	+308	—	・営業外収益に 助成金(98百万円)を計上
当期純利益	△133	—	76	4.2	+209	—	

- ◆売上高 ...待機技術者の戦力化に伴う稼働人員の増加や、顧客の残業規制緩和継続により稼働工数が増加し、前年同期比13.0%増の増収。
- ◆営業利益 ...稼働率の上昇による利益率の改善及び継続的なコスト圧縮により、前年同期比408百万円増と大幅に改善した。
- ◆経常利益 ...雇用助成金の受給金額は減少するものの、営業利益の改善が大きく、前年同期比308百万円増。

3

主要指標① 稼働率について (60.2%→84.0%)

主要顧客であるメーカー各社の収益改善傾向に伴い、受注状況が改善。新規・既存顧客への積極的かつスピーディな営業展開の推進や業務領域の拡大、組織体制の再構築などにより稼働率は、大幅に上昇。



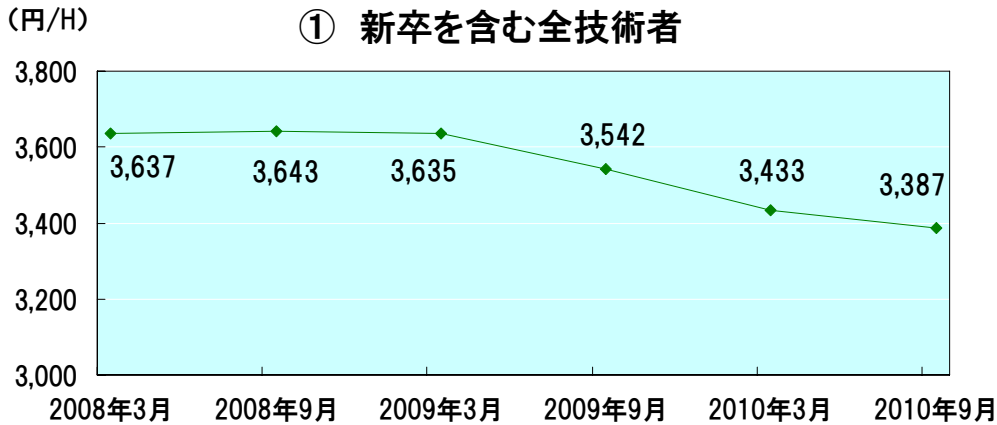
(単位:%)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期
稼働率	10/3 実績	62.2	61.4	61.0	58.8	58.7	59.0	60.2
	11/3 期初計画	71.4	75.6	76.7	78.4	78.6	79.6	76.7
	11/3 実績	76.1	81.3	83.1	86.7	88.8	89.1	84.0

※過去3カ年の稼働率については26ページ参照

※稼働率(%)=稼働技術者数/技術社員総数*100

4

主要指標② 技術料金推移(3,542円/h→3,387円/h)



2Qまでの動向

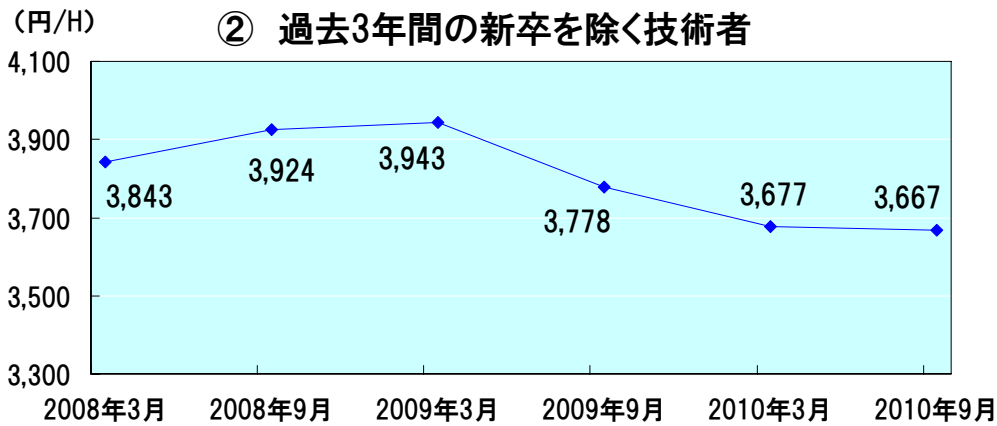
顧客要望への柔軟な対応を実施。それに加え、前年度末より業務領域の拡大をした結果、前年同期比△155円となった。



今後の動向

顧客のコスト削減には一服感がみられる状況。

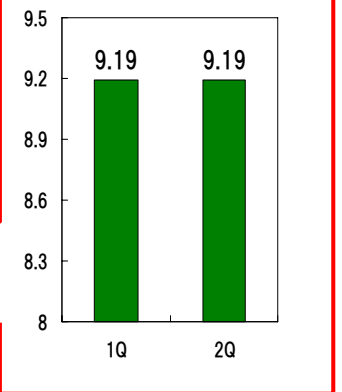
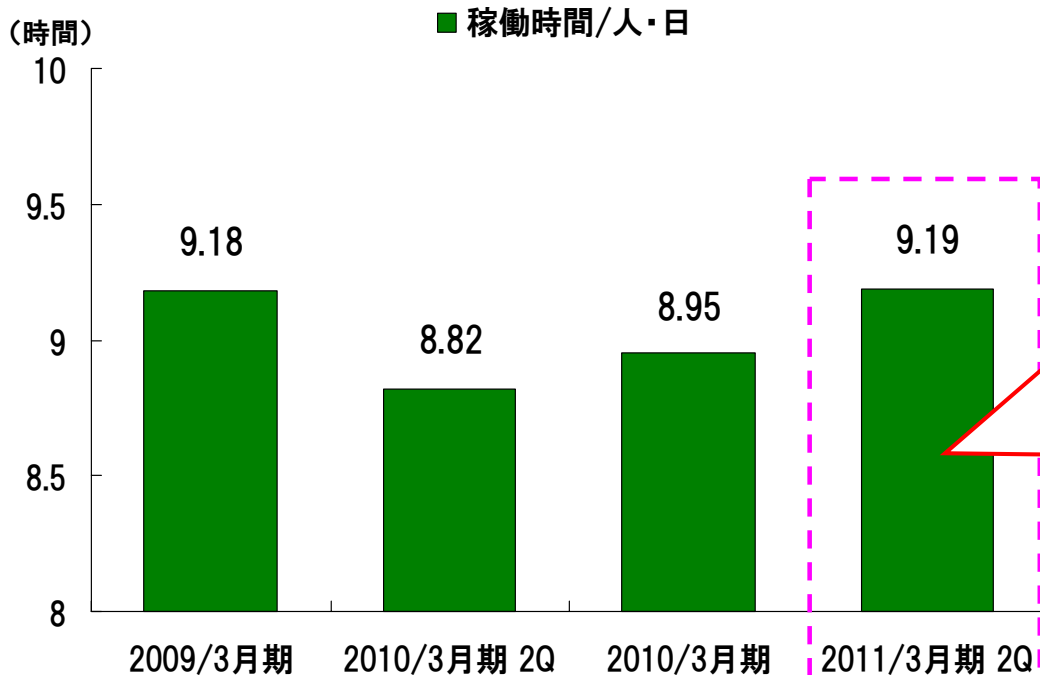
今後は顧客状況を注視しつつ、適性レート確保への展開を図る。



※上記技術料金は受託開発部門を除いております

主要指標③ 稼働時間推移(8.82h/人・日→9.19h/人・日)

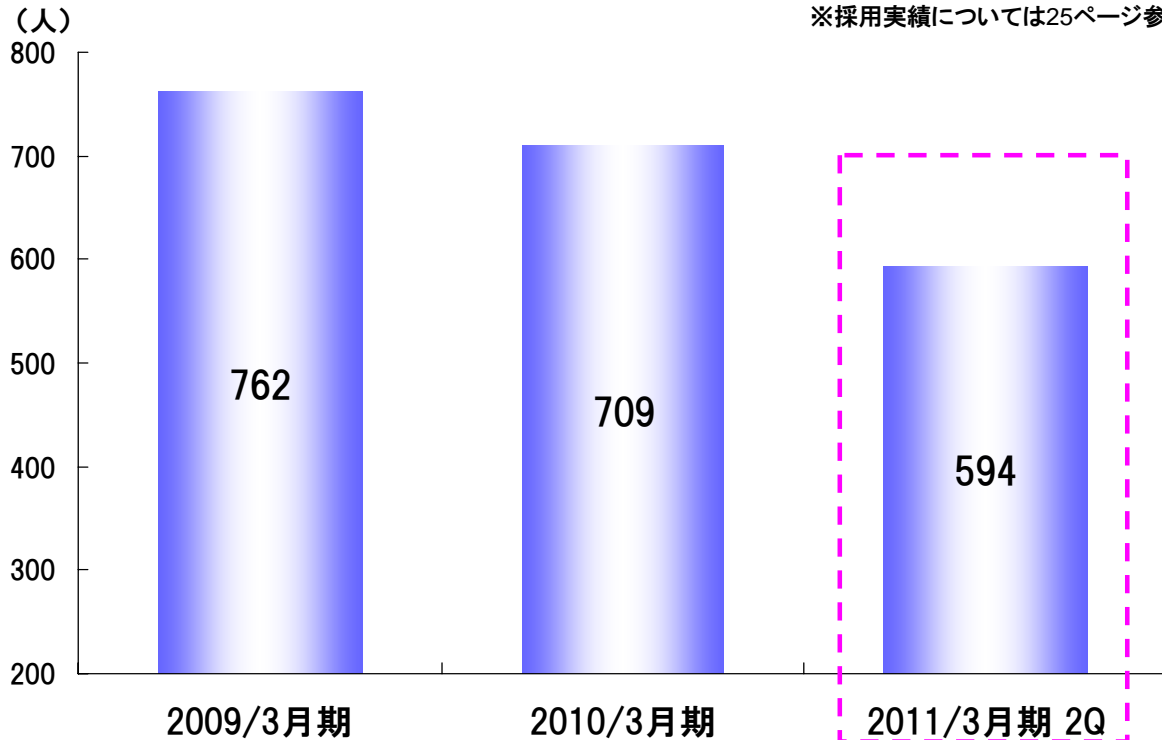
前年同期に比べ顧客企業の残業規制は緩和の状態を維持しており、稼働時間は9.19時間/人・日まで回復。



主要指標④ 技術者数推移(709人→594人)

昨年からの採用抑制(ゼロ方針)、最適な組織体制への再構築を行い、
前期末からは115人減となった。今後は即戦力技術者の採用へシフトしていく。

※採用実績については25ページ参照



事業分野別売上高(前年同期比)

景気回復により技術者の稼働が進み、ほぼ全ての業種において増加傾向。取引社数も増加。
情報通信・精密機器においては、一部企業での減少幅が大きく前年同期比16%減少した。

(単位:百万円、%)	2010年3月期 2Q			2011年3月期 2Q				取引先状況
	売上高	構成比	社数	売上高	構成比	伸び率	社数	
輸送用機器関連	583	35.9	30	759	41.4	+30.0	42	業務領域の拡大が売上高増加の主要因。その他にも既存顧客での取引が軒並み回復。大きな伸びとなった。
電気電子機器・半導体回路関連	379	23.4	28	425	23.2	+12.2	28	既存顧客のほぼ全てにおいて、前年比で増加。特にバッテリー関連が好調。
情報通信・精密機器関連	441	27.2	27	371	20.2	△16.0	33	コンシューマー向けのAV機器関連が軒並み縮小。その中でも液晶TV関連が不調。医療機器に関しては、堅調に推移。
機械関連	105	6.5	23	138	7.6	+31.8	22	新規顧客の拡大により売上高が大幅に増加。半導体製造装置での回復が顕著。中でも太陽光パネル製造装置が牽引。
情報処理・ソフトウェア関連	113	7.0	19	140	7.6	+23.4	23	通信系ソフトウェアで売上増。全体的に堅調な推移。
合計	1,624	100		1,835	100	+13.0		
取引社数	120社	188事業所		142社	198事業所			

主要取引先(上位10社)

順位	2010年3月期 第2四半期			2011年3月期 第2四半期		
	取引先名	取引高	比率	取引先名	取引高	比率
1	デンソーテクノ	139	8.6	ジヤトコ	147	8.1
2	ソニー	83	5.1	デンソーテクノ	140	7.7
3	パナソニック	78	4.9	三洋電機	94	5.1
4	三洋電機	75	4.6	パナソニック	93	5.1
5	トヨタテクニカル ディベロップメント	64	3.9	トヨタテクニカル ディベロップメント	54	3.0
6	ブラザー工業	56	3.5	ブラザー工業	53	2.9
7	三菱電機エンジニアリング	48	3.0	京セラミタ	43	2.3
8	オムロン	37	2.3	三菱電機エンジニアリング	42	2.3
9	ルネサスデザイン	34	2.1	ルネサスデザイン	41	2.3
10	京セラミタ	33	2.1	日産車体	35	1.9
	上位10社合計	652	40.1	上位10社合計	746	40.7
	その他合計	972	59.9	その他合計	1,088	59.3
	合計	1,624	100.0	合計	1,835	100.0

輸送機器関連

情報通信・精密機器関連

(敬称略) (単位:百万円、%)

電気電子機器・半導体回路関連

2011年3月期 業績予想

経済環境

- ・ 昨年最悪期からは回復状況にあるものの、アジア経済を牽引していた中国経済に陰りが見え始めた状況であることや、著しい円高傾向を背景に未だ先行きは油断できない状況。

顧客状況

- ・ 円高の影響により先行きを楽観視できない状況ではあるが、開発への投資も「節減」から「緩和」へと変化している。



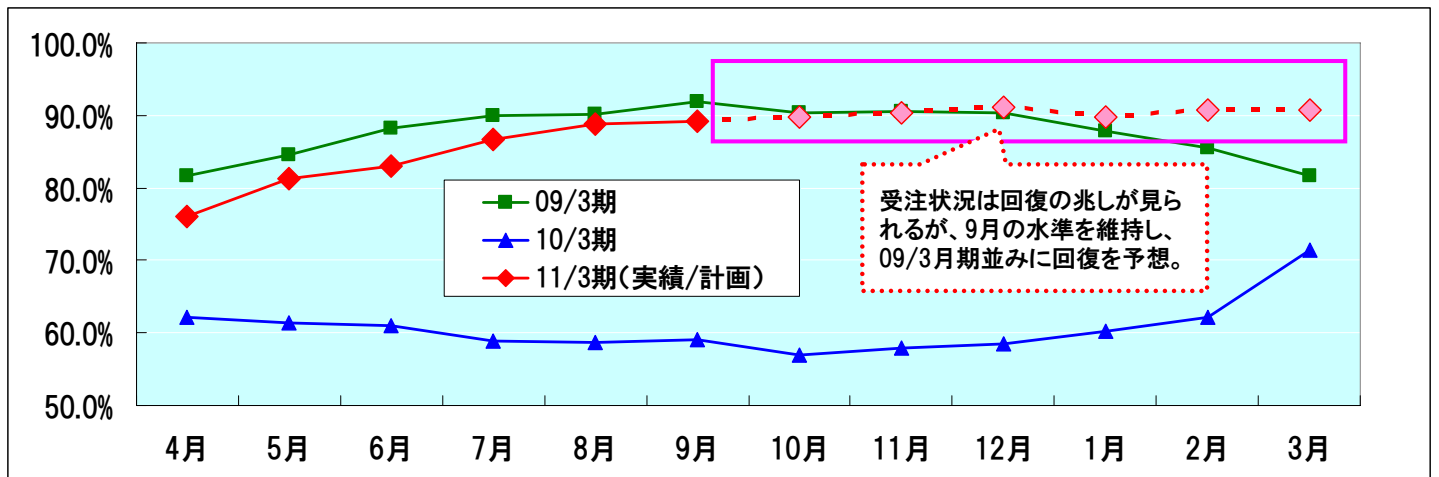
◆採用抑制の解除

⇒ 受注状況及び稼働率の改善とともに、技術者の確保が急務。
即戦力技術者(中途)採用を再開。

◆適性レートの確保

⇒ 顧客動向を注視しつつ、低下傾向にあった技術料金を改善方向へシフト。

業績前提条件: その1 (2011年3月期 通期稼働率予想)



(単位: %)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期	通期
稼働率	09/3実績	81.7	84.6	88.2	89.9	90.2	91.8	87.7	90.4	90.5	90.4	87.8	85.5	81.6	87.7	87.7
	10/3実績	62.2	61.4	61.0	58.8	58.7	59.0	60.2	57.0	57.9	58.5	60.2	62.2	71.5	61.1	60.6
	11/3実績/計画	76.1	81.3	83.1	86.7	88.8	89.1	84.0→						90.4	87.1

※稼働率(%)=稼働技術者数/技術社員総数*100

業績前提条件: その2(主要指標対前年度比較(予想))

- ①稼働率 ..下期には大きな変動はないものと見込み、前年同期を大幅に上回る予想。
- ②技術料金 ..前年同期比は下回るものの、当第2四半期の水準を維持。
- ③稼働時間 ..第2四半期までの残業規制の緩和状況を反映し増加予想。
- ④技術者数 ..ゼロ採用から即戦力技術者の採用再開にシフトするものの、厳しく見込み減少を予想。

	2010年3月期	2011年3月期 期初予想	2011年3月期 修正予想	前年同期比
稼働率	60.6%	81.4%	87.1%	+26.5p
技術料金	3,433円/H	3,342円/H	3,388円/H	△45円/H
稼働時間	8.95H/人・日	9.01H/人・日	9.16H/人・日	+0.21H/人・日
期末技術者数	709人	606人	577人	△132人

※上記技術料金は受託開発部門を除いております

2011年3月期 業績予想

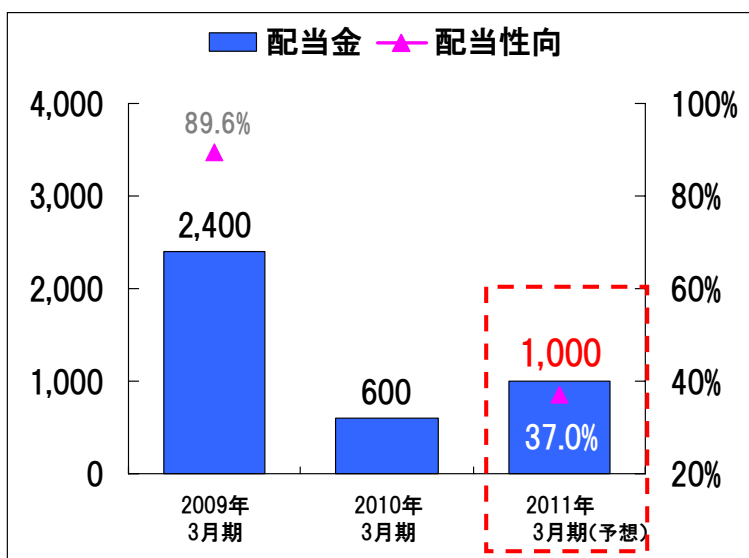
第2四半期まで実績及び受注状況、稼働状況等を勘案し業績予想を上方修正。
 予想は営業利益確保を最優先とし、更に圧縮されている人件費の
 還元の見込んだ上でも、期初予想を上回る見通し。

	2010年3月期 (実績)		2011年3月期 (期初予想)		2011年3月期 (修正予想)		前年同期比	
	金額	百分比	金額	百分比	金額	百分比	増減額	増減率
(単位: 百万円、%)								
売上高	3,274	100.0	3,452	100.0	3,687	100.0	+413	+12.6
営業利益	△627	—	△91	—	47	1.3	+674	—
経常利益	△154	—	137	4.0	186	5.0	+340	—
当期純利益	△125	—	78	2.3	107	2.9	+232	—

※2010年10月28日付け発表の業績予想修正数字

業績予想の上方修正を行ったが、期初予想の1株当たり1,000円の配当予想に変更はなし。株主の皆様へ業績を勧奨した継続的且つ安定的な配当を行う基本方針から、配当は継続的に行う予定。

(単位:円)	2009年 3月期 (実績)	2010年 3月期 (実績)	2011年 3月期 (予想)
配当金 (一株当たり)	2,400円	600円	1,000円
配当性向	89.6%	—	37.0%



本資料に関するお問い合わせ先

株式会社ヒップ

IR担当

〒220-0003 横浜市西区楠町8-8

TEL: 045-328-1000

FAX: 045-328-1001

E-mail: ir@hip-pro.co.jp

URL: <http://www.hip-pro.co.jp>

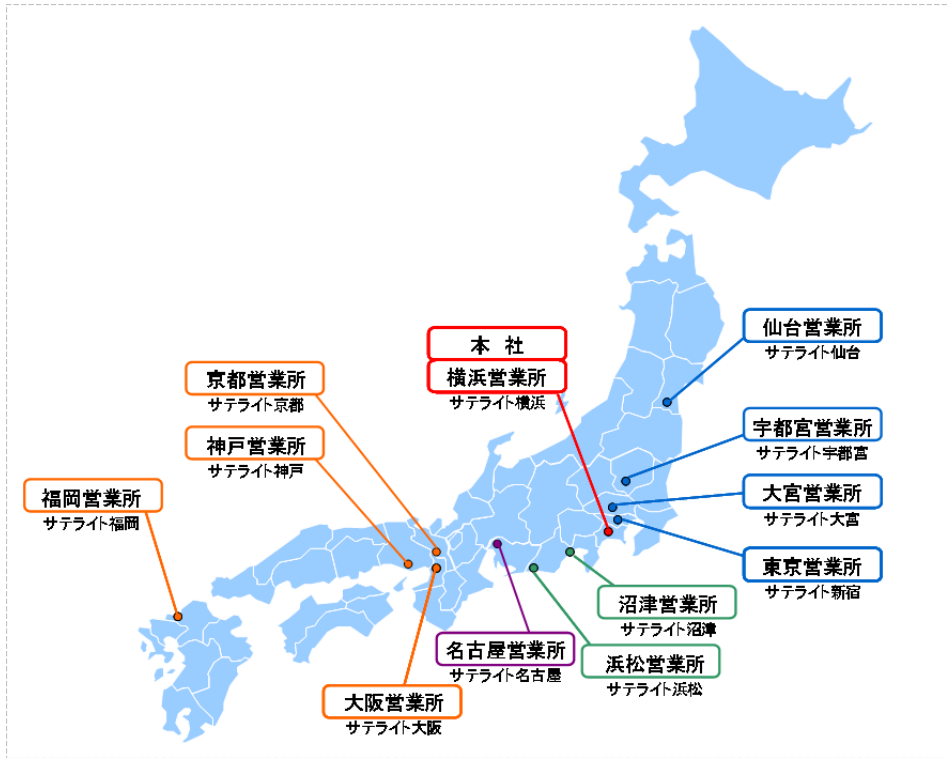
本資料は、当社の企業説明に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は2010年11月18日現在のデータ等に基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し、または、約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがありますので予めご了承ください。

参考資料：①会社概要

- 設立 : 1995年9月13日
- 代表者 : 代表取締役社長 田中吉武
- 事業内容 : 特定労働者派遣業
機械設計、電子設計、ソフト開発の
技術サービスを提供するアウトソーシング事業
(技術者派遣、業務請負)
- 事業所 : 本社(横浜)、全国合計12拠点
- 資本金 : 3億7,752万5,000円
- 売上高 : 32億7,400万円(2010年3月期)
- 経常損益 : △1億5,400万円(2010年3月期)
- 従業員数 : 662人(2010年9月30日現在)

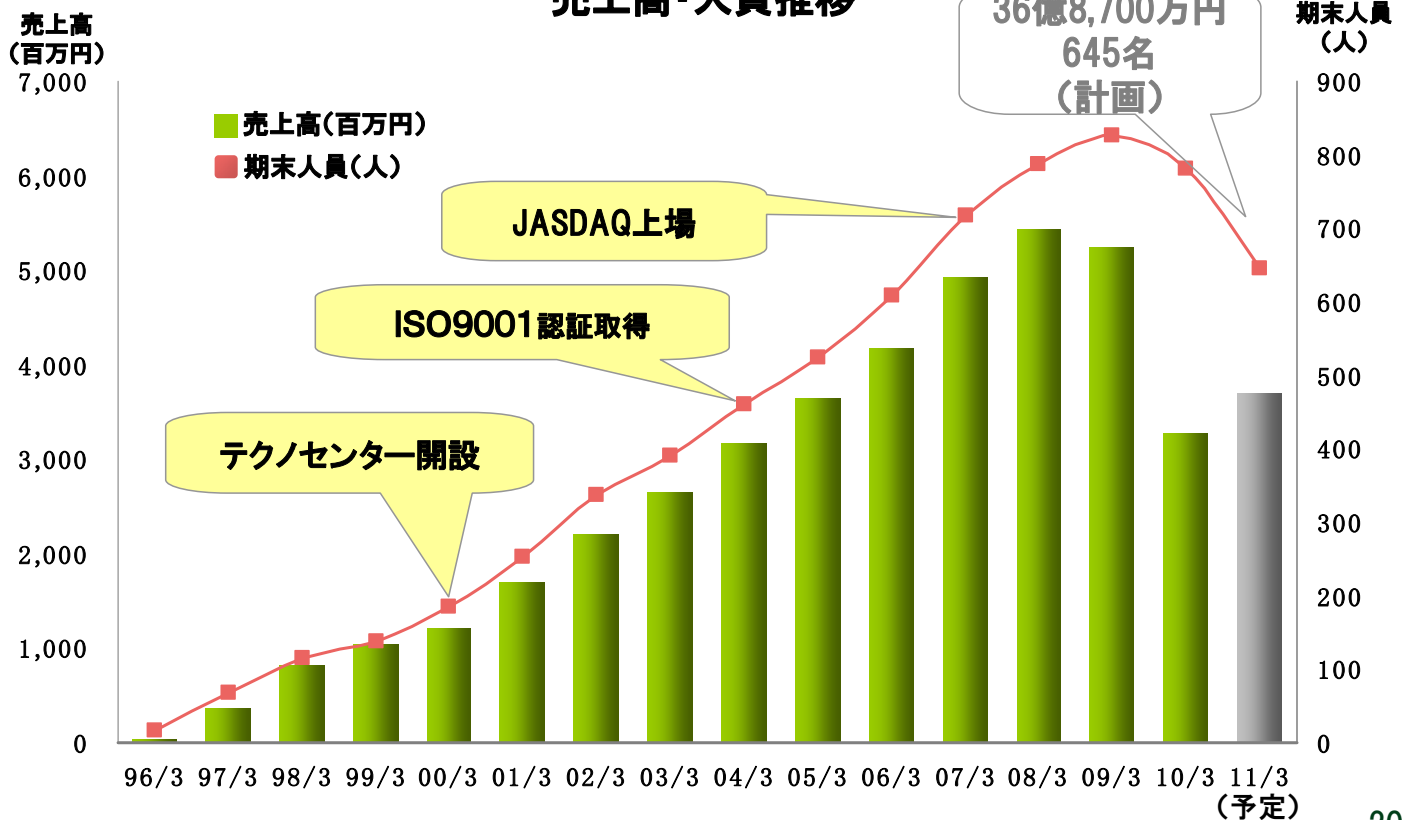
*すべて単体、当社は連結財務諸表を作成しておりません。

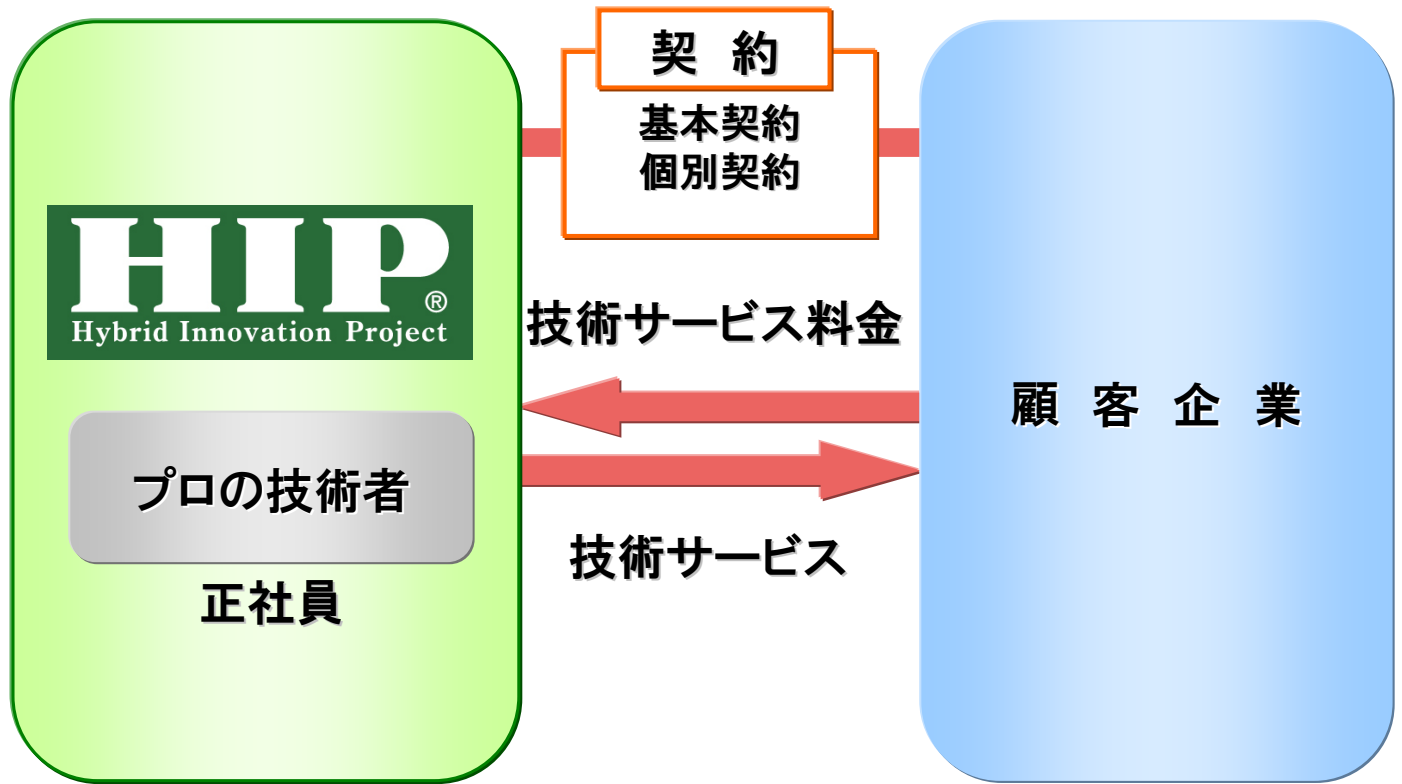
全国に展開する営業・採用拠点(13拠点)



事業所	サテライト拠点
本社	サテライト横浜
神奈川事業部	
東部事業部	
仙台営業所	サテライト仙台
宇都宮営業所	サテライト宇都宮
大宮営業所	サテライト大宮
東京営業所	サテライト新宿
静岡事業部	
沼津営業所	サテライト沼津
浜松営業所	サテライト浜松
中部事業部	
名古屋営業所	サテライト名古屋
西部事業部	
京都営業所	サテライト京都
大阪営業所	サテライト大阪
神戸営業所	サテライト神戸
福岡営業所	サテライト福岡

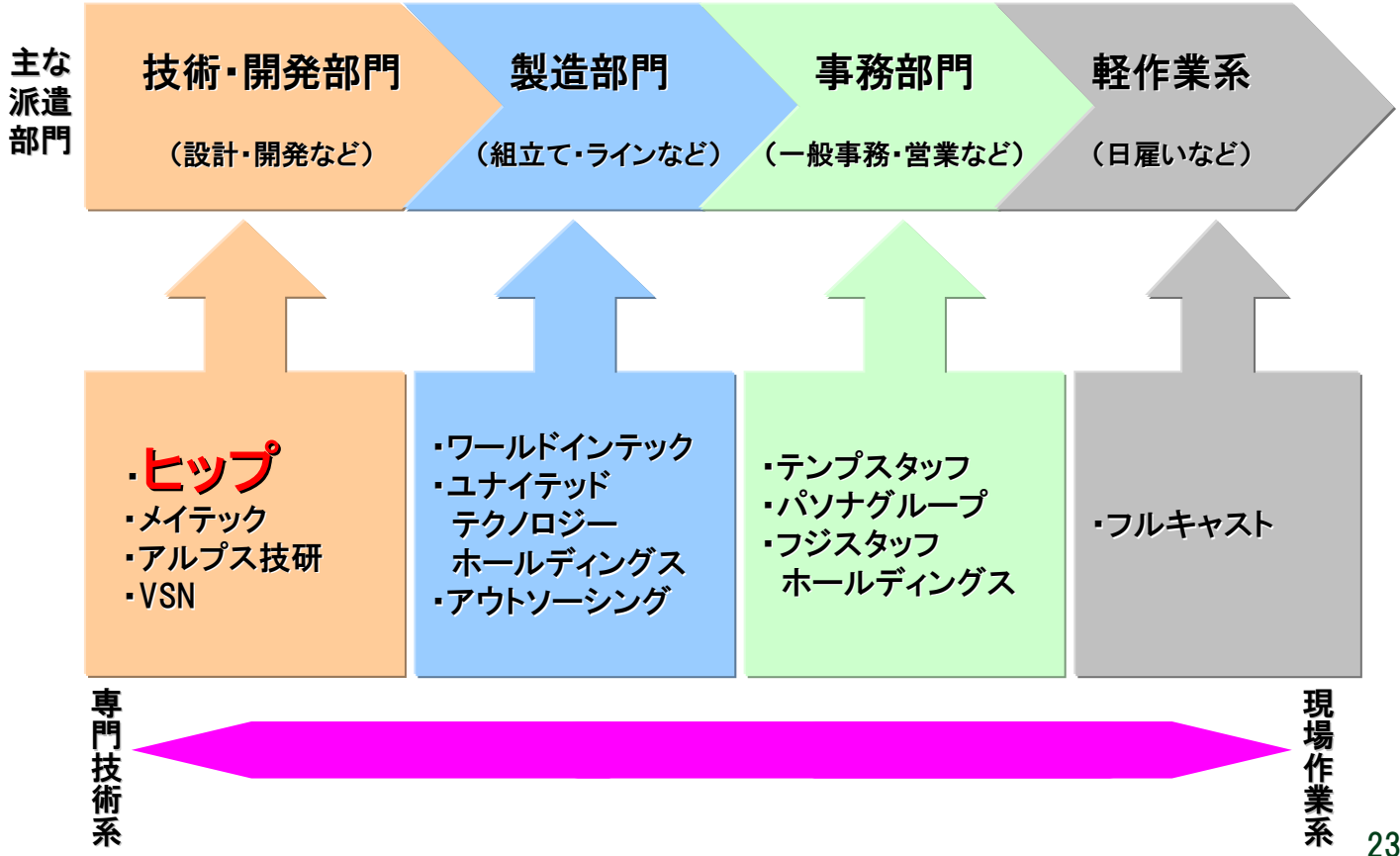
売上高・人員推移





生涯技術者®

参考資料：⑥人材ビジネス各分野の主な上場企業

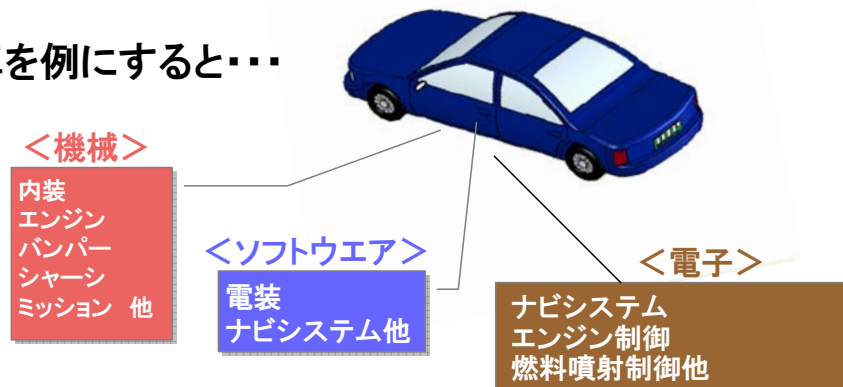


参考資料：⑦開発・設計の業務分野

■ 当社は、様々な開発・設計業務の分野において、次の3つの領域で多様な技術力を提供しております。

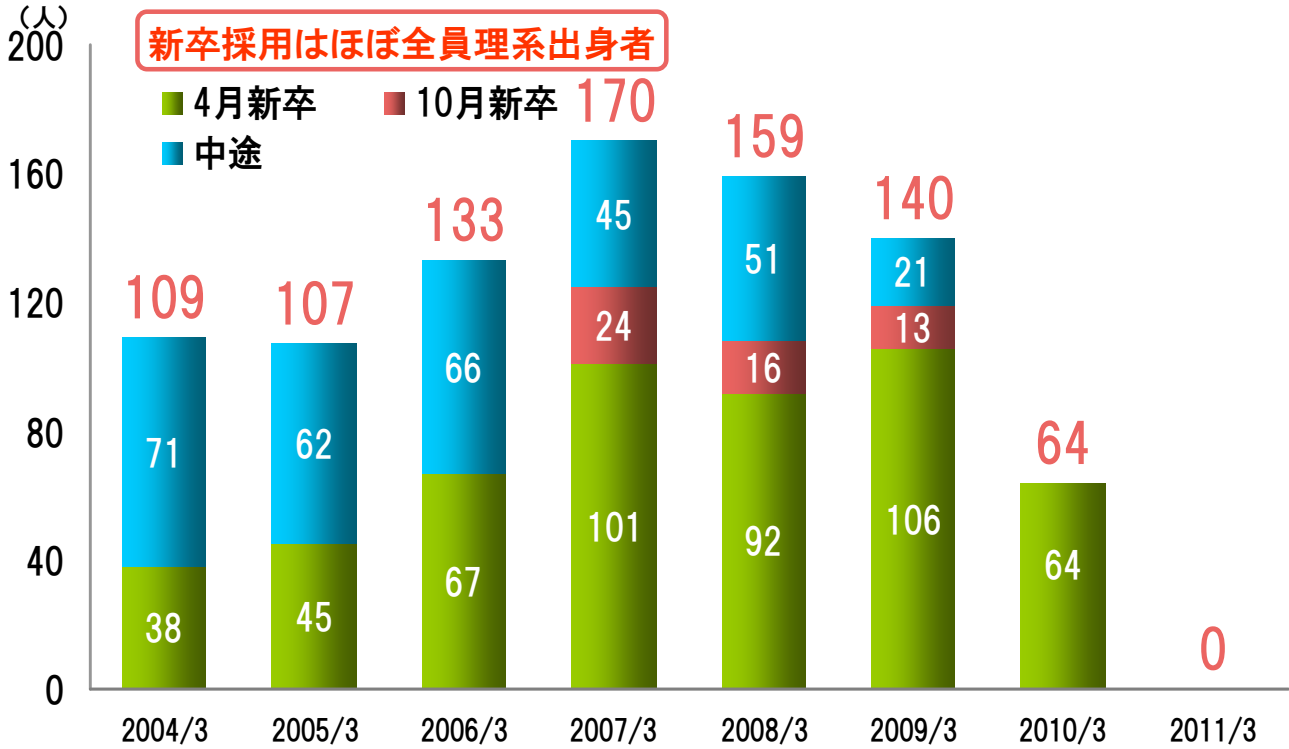


● 自動車を例にすると...

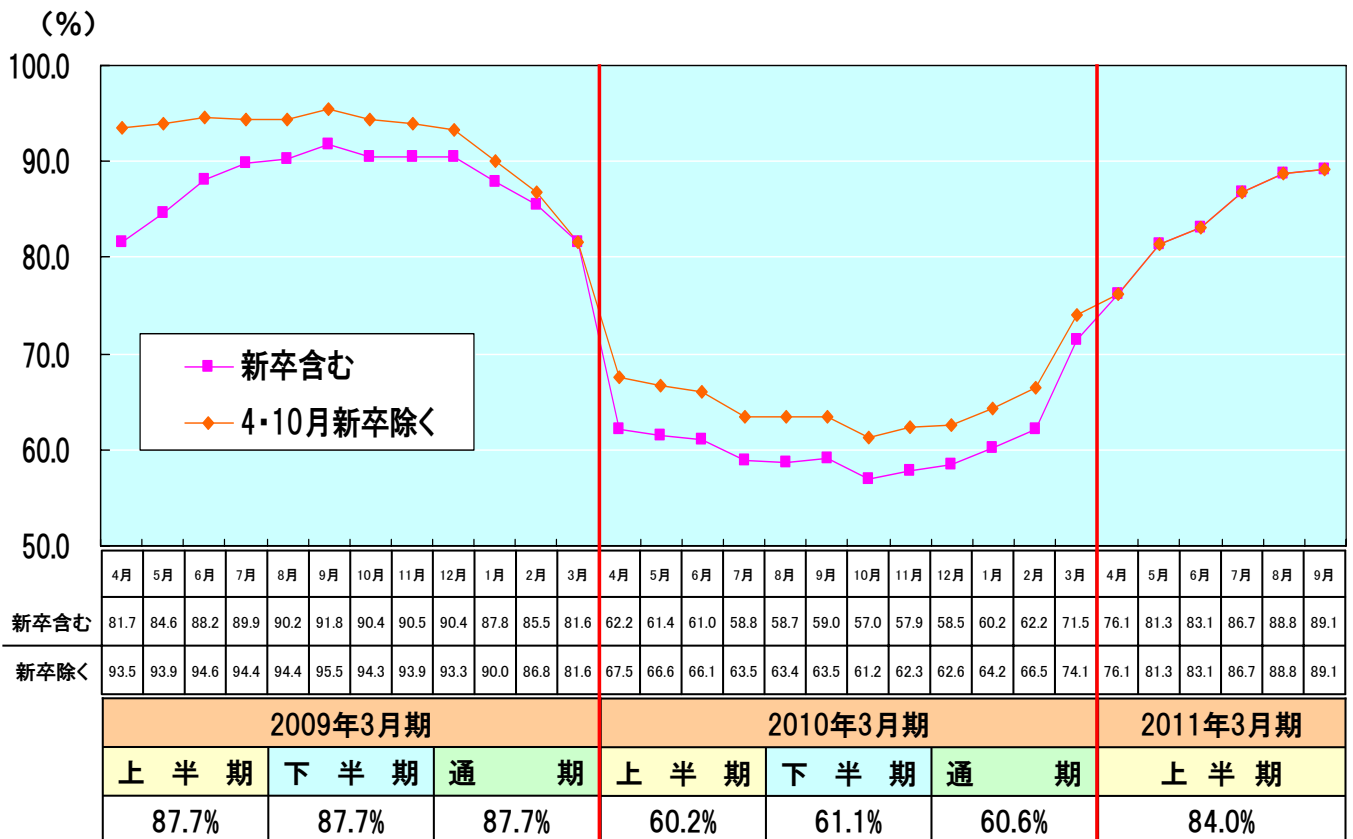


参考資料：⑧採用実績

今年度新卒及び第2四半期までの中途は採用ゼロ。
 今後は稼働状況を加味し、経験者(中途)採用を再開。人員確保へシフトする。



参考資料：⑨稼働率推移(3カ年)



※稼働率(%)=稼働技術者数/技術社員総数*100